

1 **自治体SDGs推進評価・調査検討会（第7回）の開催結果について（概要）**

2
3
4 ○日時：平成30年7月26日（木）13:00～15:00

5
6 ○場所：永田町合同庁舎 特別会議室

7
8 ○出席委員：村上座長、秋山委員、蟹江委員、竹本委員、藤田委員

9
10 ○実施内容：

11 自治体SDGs推進評価・調査検討会の設置要綱の確認や、SDGs未来都市へのサ
12 ポート内容等について確認を行った。

13
14 ○概要

15 **①<SDGs未来都市等の選定結果及び今後の取組について（報告）>**

16 ○ SDGs未来都市等の選定結果、選定証授与式の内容及びSDGs未来都市の今後
17 の取組の予定が報告された。

18
19 **②<設置要綱の改正について>**

20 ○ 自治体SDGs推進評価・調査検討会の設置要綱の改正及び委員の追加が確認され
21 た。

22
23 ○ 設置要綱の主な改正点として、SDGs未来都市計画に基づく取組の実施にあたり
24 必要な助言等をおこなうこと、個別の議題についてワーキンググループを座長が設
25 置・開催できること、等が確認された。

26
27 **③<SDGs未来都市へのサポートについて>**

28 ○ 検討会委員は、29のSDGs未来都市が提出した計画素案に対し、特に自身の専
29 門性に合致する都市や担当都市等について重点的にサポートをおこなうことが確認
30 された。

31
32 ○ 委員からの助言や現地訪問時の意見交換等を踏まえて、SDGs未来都市は8月末
33 に計画を策定することが確認された。

34
35 **④<SDGs未来都市等の進捗評価について>**

36 ○ 進捗評価の視点として、統合的取り組みとなっているか、どういう形で地域活性化

1 がもたらされるか等、そもそもの評価体系を決定することが検討会として重要である
2 という意見があった。

3
4 ○ 評価指標については、各種研究や国際的な議論の進捗等を踏まえ、継続的に改善で
5 きるものとし、今年度は現時点でアベイラブルな手法とすることが望ましいという意
6 見があった。

7
8 ○ 評価手法について踏み込んだ議論をする必要性について意見があり、事務局からは
9 ワーキンググループを設置することもできる旨の説明があった。

10
11 ○ 評価する側、評価される側双方にとって有効であることが重要であり、評価される
12 側の意見を取り入れることが必要という意見があった。

13
14 **⑤<SDGs 未来都市計画素案への助言について>、⑥<現地訪問について>**

15 ○ 計画素案に対する委員コメントを8月9日までに事務局に提出し、事務局から各都
16 市に順次フィードバックしていくことが確認された。

17
18 ○ 委員コメントは、計画推進上の具体的なアドバイスとすることが望ましいことが確
19 認された。

20
21 **⑦<その他>**

22 ○ 事務局より、地方創生SDGs官民連携プラットフォームの運営方針等について報
23 告があった。

24
25 ○ 本プラットフォームでは、国や自治体だけでなく民間企業やNPO等も含めたパー
26 トナーシップが重要であり、プラットフォーム会員によるボトムアップ型の分科会提
27 案を募るとともに、分科会設立や運営に必要な支援を事務局がおこなうことが確認さ
28 れた。

29
30 ○ 竹本委員、蟹江委員より、国連ハイレベル政治フォーラムの開催結果の報告があっ
31 た。

32
33 ○ 村上座長より、自治体のSDGsに対する認知度に関するアンケート調査について、
34 継続的に実施することが望ましいとの意見があり、事務局より、昨年度に引き続き、
35 今年度も実施していく旨の説明があった。

36 以上